

## 目 次

### 教授就任総説

- わが国における高次脳機能障害者支援の現状と課題 ..... 白山 靖彦 ..... 1
- 超高齢社会における歯科と口腔保健 —その意義と将来展望— ..... 松山 美和 ..... 7

### 受賞講演総説

- TACE 活性制御による単球分化の決定 ..... 日浅 雅博 ..... 13
- 歯髄炎発症における自然免疫機構の役割と緑茶カテキンの歯髄炎抑制効果の検討 ..... 平尾 功治 ..... 21

### 原著論文

- 真菌培養検査におけるカンジダの検出に影響する臨床的要因の検討 —口腔乾燥の関連について—  
..... 山村 佳子, 桃田 幸弘, 高野 栄之, 可見 耕一, 茂木 勝美, 松本 文博, 東 雅之 ..... 29
- 口腔ケアと歯科医療デバイス  
..... 東岡紗知江, 本釜 聖子, 本田 剛, 柏原 稔也, 永尾 寛, 市川 哲雄 ..... 35

### 基礎教育講演

- 口腔周辺の筋膜隙 ..... 北村清一郎 ..... 39
- 蛋白質リン酸化と脱リン酸化による骨形成と骨吸収 ..... 羽地 達次 ..... 45
- アクアポリン5 自然発生遺伝子変異の水チャネル機能におよぼす影響 ..... 細井 和雄 ..... 51
- iPS 細胞を用いた臨床応用の基礎と課題 ..... 野間 隆文 ..... 59

### 臨床指導講演

- 心肺蘇生法ガイドライン ～2010年の変更点を中心に～ ..... 高石 和美 ..... 69
- 歯科用レーザーの臨床応用について ..... 岡 謙次, 河野 文昭 ..... 75

### 活動報告

- 東京医科歯科大学歯学部歯学科の臨床実習視察報告  
..... 永尾 寛, 木村 智子, 泰江 章博, 三宅洋一郎, 吉本 勝彦, 市川 哲雄 ..... 79
- 日本歯科大学臨床実習視察報告  
..... 竹内 久裕, 菅 俊行, 桃田 幸弘, 尾崎 和美, 中道 敦子, 三宅洋一郎, 吉本 勝彦, 市川 哲雄 ..... 85
- ヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学主催 International Week 会議への参加・活動報告  
..... 藤原奈津美, 星野由美, 杉本真美, 土井登紀子, 日野出大輔 ..... 95

### 学位論文

- MicroRNA Analysis in Saliva ..... Wan Nazatul Shima binti Shahidan

- 四国歯学会例会報告 ..... 99
- 会務報告 ..... 105
- 会 則 ..... 108
- 投稿規定 ..... 111

# 四国歯学会第38回例会 記 録

## プログラム

日時：2011年3月29日（火）16：25より

会場：徳島大学歯学部大講義室（4階）

16：25 開会の辞 林 良夫 会長  
ベストメンター賞 表彰

## 基礎系教育講演

座 長 野間 隆文

16：30～17：00

アクアポリン5自然発生遺伝子変異の水チャネル機能におよぼす影響

○細井 和雄

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔分子生理学分野

## 臨床指導講演

座 長 永井 宏和

17：00～17：20

心肺蘇生法ガイドライン～2010年の変更点を中心に～

○高石 和美

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

歯科麻酔科学分野

17：20～17：40

ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に関する最新の知見  
ー予防・対応策についてー

○宮内 美和

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔外科学分野

## 一般演題

座 長 西川 啓介

17：40～17：50

咀嚼筋EMGを用いた噛みしめ習癖の評価について

○多喜川紗耶<sup>1</sup>，藤枝 創<sup>1</sup>

河津 嘉孝<sup>1</sup>，吉田 祐介<sup>1</sup>

山岸 雄太<sup>1</sup>，西川 啓介<sup>2</sup>

鈴木 善貴<sup>2</sup>，坂東 永一<sup>3</sup>

<sup>1</sup>徳島大学歯学部歯学科

<sup>2</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

咬合管理学分野

<sup>3</sup>徳島大学名誉教授

17：50～18：00

JICA 草の根支援事業（バングラディッシュ）の2010年の活動について

○森田 康彦

徳島大学病院歯科（歯科放射線科）

18：00～18：10

JICA 草の根支援事業（バングラディッシュ）への学生支援ボランティアに参加して

○青木 理紗

徳島大学歯学部歯学科

座 長 吉本 勝彦

18：10～18：20

東京医科歯科大学の臨床実習視察報告

○永尾 寛<sup>1</sup>，藤原奈津美<sup>2</sup>

木村 智子<sup>3</sup>，泰江 章博<sup>4</sup>

吉岡 昌美<sup>5</sup>，三宅洋一郎<sup>6</sup>

吉本 勝彦<sup>7</sup>，市川 哲雄<sup>1</sup>

<sup>1</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔顎顔面補綴学分野

<sup>2</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔保健支援学分野

<sup>4</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔顎顔面矯正学分野

<sup>5</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔保健教育学分野

<sup>6</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔微生物学分野

<sup>7</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

分子薬理学分野

<sup>3</sup>徳島大学病院総合歯科診療部

18：20～18：30

日本歯科大学臨床実習視察報告

○竹内 久裕<sup>1</sup>，菅 俊行<sup>2</sup>

桃田 幸弘<sup>3</sup>，尾崎 和美<sup>4</sup>

中道 敦子<sup>5</sup>，三宅洋一郎<sup>6</sup>

吉本 勝彦<sup>7</sup>，市川 哲雄<sup>8</sup>

<sup>1</sup>徳島大学病院歯科（かみあわせ補綴科）

<sup>2</sup>徳島大学病院歯科（むし歯科）

<sup>3</sup>徳島大学病院歯科口腔外科（口腔内科）

<sup>4</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔保健支援学分野

<sup>5</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔機能福祉学分野

<sup>6</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔微生物学分野

<sup>7</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

分子薬理学分野

<sup>8</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
口腔顎顔面補綴学分野

18:30 閉会の辞 河野 文昭 副会長

#### 注意事項

- 基礎系教育講演について  
講演時間20分とします。
- 臨床指導講演について  
講演時間15分とします。
- 一般講演について  
発表時間8分、討論時間2分とします。
- 講演、発表方法について
  - ・発表は液晶プロジェクター、単写とします。
  - ・Microsoft社のPowerPointを用いてスライドを作成して下さい。
  - ・コンピューター（Windows PCとMac）は発表者が御用意下さい。
  - ・前日の3月28日（月）16:00～18:00の間に、動作確認を行ってください。
- 講演、発表後に400字程度の抄録をメール（daisuke@dent.tokushima-u.ac.jp）にてご送付下さい。

## 第38回例会 基礎系教育講演・臨床指導講演 一般講演抄録

### アクアポリン5自然発生遺伝子変異の水チャンネル機能におよぼす影響

○細井 和雄

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
口腔分子生理学分野

アクアポリン（AQP）は哺乳動物において13種類（AQP0-12）のメンバーからなる水チャンネルファミリー蛋白質である。ファミリーの一種、AQP5は涙腺、耳下腺、顎下腺などの外分泌腺、および肺に発現している。私たちはラット AQP5 mRNA 及びそのゲノム DNA の308番目にG>Aの点変異が存在することを見出した。この変異の結果、AQP5蛋白質分子の<sup>103</sup>Glyは<sup>103</sup>Aspに置き換わっており、唾液腺において種々の表現型の変化生じていた。点変異は、水の通路からは遠隔部位である第3膜貫通領域に存在した。期待されたように変異分子の水透過能は野生型の分子のそれとほぼ同様で、変異は水透過能に影響しないと思われた。変異ラットでは顎下腺においては膜における変異分子の発現は著しく減少し、唾液分泌量も野生型ラットと比較し減少が見られた。

共焦点顕微鏡観察により、野生型ラットと比べて、変異ラットの腺房部細胞内ではAQP5とLamp2やカテプシンDなど、リソゾームマーカーとの共局在の増加が観察された。このことから、変異分子のリソゾーム系による代謝促進が起こっていることが推察された。

### 心肺蘇生法ガイドライン ～2010年の変更点を中心に～

○高石 和美

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
歯科麻酔科学分野

2010年ガイドラインの最大の変更点は心肺蘇生法の手順である。突然の心停止は成人に多く、最優先の治療は胸骨圧迫と除細動である。従来のA（Airway；気道確保）B（Breathing；人工呼吸）C（Circulation；胸骨圧迫）の手順では胸骨圧迫開始までの時間が遅れていた。そのためCABの順序で行うことにより早期に胸骨圧迫を開始することが可能になった。胸骨圧迫は、胸骨の下半分の位置を100回/分以上のリズムで胸郭が5cm以上下がる程に強く押す。圧迫の度に胸骨が元の位置に戻ることが重要である。人工呼吸が可能な場合は過換気を避け、胸骨圧迫対人工呼吸を30:2の比率で行う。人工呼吸が困難な場合は省略する。また、小児の一次救命処置では小児用AEDパッドの使用範囲が乳児まで拡大された。その他、胸骨圧迫において質の高さを互いに評価することや1～2分毎に交代するなどチーム医療の重要性があげられた。

### ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に関する最新の知見

—予防・対応策について—

○宮内 美和、宮本 洋二

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
口腔疾患制御外科学分野

ビスフォスフォネート（BP）の長期投与患者、特に注射薬使用患者において、抜歯などの歯科治療を契機として顎骨壊死（BRONJ）を発症することが、2003年に米国ではじめて報告された。わが国においてもBRONJ発生の報告が集積しつつあり、BRONJに対する早急な対応が迫られている。しかし、BRONJの発生機序は不明で予防法や対処法も確立されていない。また、BRONJは極めて難治性なため、十分なエビデンスが得られている治療法はなく経験に基づいた治療がなされているのが現状である。そこでBRONJに関する正確な情報を収集し、その予防策や対応策について統一の見解を

提言することを目的として、2010年3月にポジションペーパーが発表された。今後はこのポジションペーパーに沿った予防処置や治療を行うことが求められる。

本発表では、ポジションペーパーに沿った診断基準、リスクファクター、予防法や治療指針について概説した。また、2010年の時点で日本で販売されているBP製剤について注射薬と経口薬に分けて解説した。さらに2009年5月～2010年7月の間に当科を受診したBRONJ患者9名の発症原因、臨床症状と治療経過について示した。原疾患は癌が4名、骨粗鬆症5名で、BP製剤は癌症例に対しては全例ゾメタが、その他の症例に対しては5例中4例に経口薬フォサマックが投与されており、この2つは要注意薬と考えられた。発症原因として歯周炎から3例が発症していた。治療内容は腐骨が分離してきた症例については外科処置を行い、その他の症例については保存的に洗浄を行った。治療効果に関しては、外科処置を行った2例は治癒したが、残りの7例は経過観察中である。最後に、BRONJを発症させないためには、BP治療開始前に侵襲的な歯科処置を含む全ての歯科治療を終え良好な口腔衛生状態を保つこと、またBP治療開始後は、定期的な歯科検診と徹底した口腔清掃を行って、良好な口腔衛生状態を保つことが重要であることを報告した。

## 咀嚼筋EMGを用いた噛みしめ習癖の評価について

○多喜川紗耶<sup>1</sup>、藤枝 創<sup>1</sup>  
河津 嘉孝<sup>1</sup>、吉田 祐介<sup>1</sup>  
山岸 雄太<sup>1</sup>、西川 啓介<sup>2</sup>  
鈴木 善貴<sup>2</sup>、坂東 永一<sup>3</sup>

<sup>1</sup>徳島大学歯学部歯学科

<sup>2</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
咬合管理学分野

<sup>3</sup>徳島大学名誉教授

本研究の目的は日常生活において無意識に行われる噛みしめ習癖と実験的なストレスとの関係を調査することにある。顎口腔機能に異常が無く、個性正常咬合を持つ成人被験者3名（男性2名、女性1名、平均年齢22.4歳）を対象として、安静時と負荷作業時の咀嚼筋活動と唾液アミラーゼ活性の経日的測定を行った。筋活動は携帯型筋電計を用いて片側の咬筋の表面筋電図を双極誘導し記録した。急性ストレス反応の指標となるアミラーゼ活性は唾液アミラーゼモニターを用いて舌下部から採取した唾液を分析することによって測定した。30分間の安静時と10分間の計算作業時の筋活動とアミラーゼ活性を被験者毎に6日間、繰り返して記録した。

測定の結果、1名の被験者において作業後のアミラー

ゼ活性に有意な増加を認めたが、咀嚼筋の活動値については作業時と安静時で有意な差を認めなかった。また作業時の咀嚼筋活動値は経日的な変動が大きく、同じ作業を行っても噛みしめを生じる程度は測定日によって大きく異なる傾向が認められた。

## JICA草の根支援事業（バングラディッシュ）の2010年の活動について

○森田 康彦

徳島大学病院歯科放射線科

本活動（バングラディッシュでの予防歯科事業）は北海道大学歯学研究科がJICAより委託をうけ、現地の典型的な農村の小学校12校の3000人強の生徒を対象としている。

前年度の事業はTBIや歯科検診を、主に北海道大学学生支援グループが現地大学教員と共に行った。

2010年度は、事業の継続性と現地での自立運営であり、このため夏期では現地歯科大学生の参加を1校1日で組み込んだ。冬期では現地12の全歯科大学がそれぞれ12の小学校での全事業に参加した。またTBI教材の現地化がほぼ完成した。

最終年度2011年度には完全な現地主体の小学校事業の運営を予定している。

## JICA草の根支援事業（バングラディッシュ）への学生支援ボランティアに参加して

○青木 理紗

徳島大学歯学部歯学科3年

2010年7/26－8/20に行われたJICA草の根支援事業への学生支援ボランティアに参加した概要を報告した。

活動の目的は段階を踏んで「学校歯科保健の自立」を目指すことで、その手段としてTBIや歯科検診を行なった。学生の仕事はあくまで「手伝い」であるが、TBI補助以外にも洗口の準備、検診の書記や学童の誘導など、重要な役割も任されていた。国際協力において重要な自立・継続可能のため、TBI等が日本側学生、現地の歯科医・学生、小学校の教員へと、徐々に継承されるよう指導にあたった。

『ボランティアをする人＝すごい人でなくては』というプレッシャーとの葛藤の中、参加者と語り、共に活動できたことで、視野を広がり、自信となった。同行した北海道大学、北海道医療大学、長崎大学学生との交流と刺激は継続しており、早期体験からプロジェクトマネージャーという目標が具象化している。

## 東京医科歯科大学の臨床実習視察報告

○永尾 寛<sup>1</sup>, 藤原奈津美<sup>2</sup>  
木村 智子<sup>3</sup>, 泰江 章博<sup>4</sup>  
吉岡 昌美<sup>5</sup>, 三宅洋一郎<sup>6</sup>  
吉本 勝彦<sup>7</sup>, 市川 哲雄<sup>1</sup>

<sup>1</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔顎顔面補綴学分野

<sup>2</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔保健支援学分野

<sup>4</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔顎顔面矯正学分野

<sup>5</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔保健教育学分野

<sup>6</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔微生物学分野

<sup>7</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

分子薬理学分野

<sup>3</sup>徳島大学病院総合歯科診療部

徳島大学歯学部は臨床実習では少人数教育を行っており、教員は知識、技術、考え方などを手渡しするように学生に伝えている。しかし、近年歯科医療は細分化、複雑化しており、患者の医療への要求も高くなっている。このような状況に対応するために臨床教育の改善が急務である。そこで、臨床教育先進校と考えられる東京医科歯科大学の臨床実習を視察し、本学部の臨床実習改善のための情報を収集した。

東京医科歯科大学は本学と比較した場合、学生一人あたりの配当患者数、minimum requirement が3～5倍であった。加えて、高名な臨床教授も指導医として教育に加わっており、学生にとって非常に恵まれた環境であった。学生もこれに応えるように臨床実習への参加意欲が高い印象を受けた。臨床実習の修了認定時には、終了時OSCEを行っている。

配当患者数ではかなりの開きがあるが、東京医科歯科大学で学んだことを参考にし、終了時OSCEの導入も含め、徳島大学に合った臨床教育システムを構築していく予定である。

## 日本歯科大学臨床実習視察報告

○竹内 久裕<sup>1</sup>, 菅 俊行<sup>2</sup>  
桃田 幸弘<sup>3</sup>, 尾崎 和美<sup>4</sup>  
中道 敦子<sup>5</sup>, 三宅洋一郎<sup>6</sup>  
吉本 勝彦<sup>7</sup>, 市川 哲雄<sup>8</sup>

<sup>1</sup>徳島大学病院歯科（かみあわせ補綴科）

<sup>2</sup>徳島大学病院歯科（むし歯科）

<sup>3</sup>徳島大学病院歯科口腔外科（口腔内科）

<sup>4</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔保健支援学

<sup>5</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔機能福祉学

<sup>6</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔微生物学

<sup>7</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

分子薬理学

<sup>8</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔顎顔面補綴学

平成23年2月16日、日本歯科大学附属病院を訪問し、病院見学ならびに臨床実習見学を行った。同校の臨床実習の特徴としては、1) 臨床実習は5年生で行う、2) 5年生から4年生への引き継ぎを学生主体で行っており、実習期間が1ヶ月重なっている、3) 準備実習が3ヶ月あり、その後に参加型実習が始まる、4) 学生は各自が担当した患者5名以上に評価を依頼し、評価およびフィードバックを受けている、5) メンタリング制度を取り入れている、6) 指導医セミナーを年2回行っている、などが挙げられる。また、臨床見学の後に研修医と5年生によるワールドカフェを見学し、その意見などから、本学の臨床実習へのヒントとしては、1) 指導医間のキャリアレーションのため、臨床指導に焦点をあてたFDもしくは指導医セミナー等の開催、2) 診療の全体像を早期に把握させるため、6年生や研修医の症例発表会への5,6年生の参加、などが考えられた。

## 四国歯学会 第39回例会・第30回総会 記 録

### プログラム

日時：2011年6月30日（木）16：25より

会場：徳島大学歯学部大講義室（4階）

16：25 開会の辞 市川 哲雄 会長

16：30～17：15 総会

### 教授就任講演

座長 伊賀 弘起

17：15～17：45

口腔保健学科における社会福祉教育の可能性

○白山 靖彦

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

地域医療福祉学分野

17:45～18:15

超高齢社会における口腔機能リハビリテーション

—その意義と将来展望—

○松山 美和

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔機能福祉学分野

**基礎系教育講演**

座長 石丸 直澄

18:15～18:45

iPS細胞を用いた臨床応用の基礎と課題

○野間 隆文

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

分子医化学分野

**臨床指導講演**

座長 河野 文昭

18:45～19:05

歯科用レーザーの臨床応用について

○岡 謙次, 河野 文昭

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

総合診療歯科学分野

19:05 閉会の辞 河野 文昭 副会長

**注意事項**

- 教授就任講演について  
講演時間30分とします。
- 基礎系教育講演について  
講演時間20分とします。
- 臨床指導講演について  
講演時間15分とします。
- 講演, 発表方法について
  - ・発表は液晶プロジェクター, 単写とします。
  - ・Microsoft社のPowerPointを用いてスライドを作成して下さい。
  - ・コンピューター(Windows PCとMac)は発表者が御用意下さい。
  - ・前日の6月29日(水)16:00～18:00の間に, 動作確認を行ってください。
- 講演, 発表後に400字程度の抄録をメール(daisuke@dent.tokushima-u.ac.jp)にてご送付下さい(教授就任講演は必要ありません)。

## 第39回例会 基礎系教育講演・臨床指導講演 抄録

**iPS細胞を用いた臨床応用の基礎と課題**

○野間 隆文

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

発達予防歯学部健康長寿歯科学講座分子医化学分野

2006年にiPS細胞が世に登場した。それまで“多能性幹細胞”の主役の座は胚性幹細胞(ES細胞)であったが, ES細胞には二つの克服すべき課題があった。一つは倫理的問題, もう一つは移植拒絶である。これらの問題で圧倒的な優位性をアピールしたのが“iPS細胞”である。革新的な幹細胞操作技術や治療技術等を世界に先駆けて確立し, 再生医療の実用化を目指すことは, 国の「ライフサイエンス分野の重点研究課題」として提唱されている。その意味においてiPS細胞には大いに期待が集まっている。しかしながら, 現実には, ガン化の防止, iPS化の効率向上, 採取すべき細胞の組織はどこにするか, さらには再生のための分化誘導法の確立と分化後の純度向上や純化方法等, 克服すべき課題もまだ多くあるのが実情である。今回の教育講演では, iPS細胞を用いる再生療法の可能性と課題について概説するとともに, 私たちの研究グループが目指している歯の再生へ向けた研究の現状と課題について紹介したい。

**歯科用レーザーの臨床応用について**

○岡 謙次, 河野文昭

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

総合診療歯科学分野

歯科においてレーザーが治療に用いられるようになり, 様々な症例が報告されるようになってきた。近年では特にEr:YAGを発信源としたレーザーが多数商品化され臨床への応用が増えている。今回はこの中からErwin AdvErl(モリタ製)を紹介する。

レーザー治療は従来と比べて, 痛みが少なく(術後疼痛を含む), 治療中の振動・音などによる患者のストレス軽減を長所としている。

Er:YAGレーザーは波長2.94 μmで水への吸収が非常に大きく, この性質より表面吸収型の非熱的蒸散型レーザーとして位置付けられている。他のレーザーと比較し, 軟組織への応用に加え, 硬組織(エナメル, 象牙質)の切削ならびに歯石除去に効果があることを特徴としている。

本学会では、Erwin AdvErl を用いた症例（窩洞形成、根管治療、歯肉切除、メラニン色素除去、歯周治療など）を報告し、また、臨床応用初期から最近になり変化してきた照射法などを検討し、再考を加えた。

## 四国歯学会会務報告

第30回総会は平成23年6月30日（木）16時25分から歯学部大講義室（4F）にて開催された。  
市川哲雄会長の挨拶の後、石丸理事を議長に選出して以下の報告及び協議がなされた。

### 報告事項

1. 庶務報告（田中理事）
  - 1) 運営委員会の開催 平成22年度第3回 平成23年3月7日（月）  
平成23年度第1回 平成23年6月7日（火）
  - 2) 理事会の開催（第94回平成23年3月8日，第95回平成23年6月9日）
  - 3) 現在会員数（平成23年3月31日現在，学内210名）
  - 4) 退会会員数（平成23年3月31日現在，学内12名，学外1名），  
22年度退会申出数（1名）
  - 5) 学外会員数（平成23年3月31日現在，352名）
  - 6) 楯・メダル現在残数（平成23年3月31日現在，楯 27個，メダル 139個）
  - 7) 新たな名誉会員として，林良夫名誉教授，中野雅徳名誉教授，吉田秀夫名誉教授の3名を報告した。
2. 学術報告（宮本理事）  
第40回例会・第31回総会の予定について
3. 編集報告（尾崎理事）
  - 1) 第23巻1，2号の状況報告
  - 2) 第24巻1号の状況報告

### 協議事項

1. 四国歯学会雑誌投稿規定に改訂について，審議の上，承認された。
2. 平成22年度（2010年度）会計決算報告及び監査報告  
会計決算報告について，日野出理事より説明があり，横山理事より監査報告がなされた後，決算は原案どおり承認された。
3. 平成23年度（2011年度）予算案  
日野出理事より予算案の説明があり，原案どおり承認された。
4. その他



## 1. 平成22年度（2010年度）決算

収 入			決 算 高	予 算 高	差 異
繰 越 金			8,332,349	8,332,349	
入 会 金			18,000	20,000	-2,000
本 年 度 会 費			956,000	1,000,000	-44,000
過 年 度 会 費			130,000	50,000	80,000
賛 助 会 費			225,000	175,000	50,000
過 年 度 賛 助 会 費			0	25,000	-25,000
論 文 掲 載 料			524,351	600,000	-75,649
広 告 掲 載 料			210,000	300,000	-90,000
雑 収 入			54,805	30,000	24,805
小 計			2,118,156	2,200,000	-81,844
合 計			10,450,505	10,532,349	-81,844

支 出			決 算 高	予 算 高	差 異
学 会 開 催 費			34,569	250,000	-215,431
会 誌 印 刷 費			1,001,280	1,400,000	-398,720
通 信 連 絡 費			60,423	120,000	-59,577
事 務 費			61,205	70,000	-8,795
事 務 委 託 補 助 費			50,000	100,000	-50,000
備 品 費			0	35,000	-35,000
国 際 交 流 事 業 費			80,310	200,000	-119,690
事 業 費			0	100,000	-100,000
朝 鮮 大 学 校 交 流 事 業			236,627	225,000	11,627
国 際 シ ン ポ ジ ヴ ム 補 助 費			4,800	300,000	-295,200
予 備 費			0	100,000	-100,000
支 出 合 計			1,529,214	2,900,000	-1,370,786
次 年 度 繰 越 金			8,921,291	7,632,349	
合 計			10,450,505	10,532,349	

## 2. 平成23年度（2011年度）予算

収 入		予 算	支 出		予 算
前 年 度 繰 越 金		8,921,291	学 会 開 催 費		250,000
入 会 金		20,000	会 誌 印 刷 費		1,400,000
本 年 度 会 費		950,000	通 信 連 絡 費		100,000
過 年 度 会 費		50,000	事 務 費		70,000
賛 助 会 費		275,000	事 務 委 託 補 助 費		100,000
過 年 度 賛 助 会 費		50,000	備 品 費		35,000
論 文 掲 載 料		600,000	国 際 交 流 事 業 費		200,000
広 告 掲 載 料		300,000	事 業 費		100,000
雑 収 入		30,000	朝 鮮 大 学 校 等 交 流 事 業		250,000
合 計		11,196,291	国 際 シ ン ポ ジ ヴ ム 補 助 費		0
			予 備 費		200,000
			支 出 合 計		2,705,000
			繰 越 金		8,491,291
			合 計		11,196,291